
狼につき、？

きまぐれ屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狼につき、？

【ZPDF】

Z0051F

【作者名】

きまぐれ屋

【あらすじ】

だらしない作家と編集者。男も女も、人間だから欲情するに決まつてるだろ

(前書き)

かなーり短い短編です。ちなみにお話は「狼につき、嫉妬」あたりです。どうぞお楽しみください*

イラライライライラ

今の俺に効果音を付ければ、またにこんな感じ。

なんだかんだ、原因はやっぱりあいつに違いない。

中村 サキ

俺についていた編集者だ。

過去形な理由は、今や俺は”あいつの担当する作家の一人”になつた事だ。

はつきり言つと、無性に氣に入らない。

あいつが居ないと部屋は樹海のまんまだし、
うまいコーヒーは飲めねえし、
なにしろ暇だ。

まあその暇も憂鬱も苛々も、あと五分もすれば解消されるのだが。

・・・ガタン！
バタバタバタ

「せんせいつ！？」「
おう、来たな」

「・・・」

大きな目がさらに開いて、途端に眉間に皺がよる中村。

俺は反対に、自分の頬が緩むのが分かった。

「メールで、死にそうって」
「・・・」
「風邪ひいたって」
「・・・」
「一つかえる！」

勢いよくきびすを返した中村の、細い腰に腕を回して引き寄せる。

ひざびたに感じる柔らかな感触に、情けないが眩暈が起きそうだ。

「中村が、不足気味だ」

「これは、やばい

堅苦しいステッツから覗く白い首筋に、唇を押しつけて後悔した。

唇が触れた肌の熱さは俺のでもあって、彼女のでもある。

顔が見えない分、真っ赤な顔の彼女を想像してしまつ。

うなじに舌を這わせるたび毎に、顎が上がる。

お腹に回る腕の力を強くするたびに、肩が上がる。

やばい、いいかも

「へっせんせ、」

なに、

声に出さじなく、掻き上げた髪から覗く耳に軽く歯を付けた。

「・・・つ顔が、みたい・・・」

なんだこれ
なんだこいつ

・・・今まで一番、キた、かも。

「せんせい・・・?」

「やばい、今まで一回イケそう。」「へへへ、ええ?!

真っ赤に染まる耳元で、甘く囁けば。

「責任、とつて。サキ」

(後書き)

このシリーズを続けて欲しい、のコメントだけで作者が猛烈やる気でちゃいました。笑) 閲覧してくれる方、ありがとうございます!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0051f/>

狼につき、？

2010年11月24日06時58分発行